

CORE
BOOKS

永 六輔

Rokusuke EI

女=父と子

わが家のおんな百年史

毎日新聞社

毎日新聞社

定価380円

毎日新聞社

定価380円

永 六輔
Rokusuke Ei



女=父と子



わが家のおんな百年史



毎日新聞社

女=父と子

¥ 380

昭和45年11月18日 印刷

昭和45年11月28日 発行

著 者 © 永 六 輔

発行人 星 野 慶 栄

編集人 岡 本 博

発 行 所 毎 日 新 聞 社

郵便番号100・東京都千代田区一ツ橋 1-1

郵便番号530・大阪市北区堂島上 2-36

郵便番号802・北九州市小倉区紺屋町 7-207

郵便番号450・名古屋市中村区堀内町 4-1

印刷・図書印刷 製本・佐久間製本

0039-652700-7904

女Ⅱ父と子

―わが家のおんな百年史―

はじめに

「この『女Ⅱ父と子』を僕の母　そして父の母　さらに僕の妻と　その妻の母　さらに　僕の二人の娘達に捧げる」と書けるほど立派な本ではない。

「街Ⅱ父と子」「旅Ⅱ父と子」につづいて、おだてられたオツチヨコチヨイ親子が、いい気になって書いた女にまつわる話。

妾宅の一軒もあればもつと尊敬しあえる親父であり、息子なのだが、そこは心小さき下町育ち、「仲良きことは美しきかな」とばかりの夫婦二代。

東京放送が永六輔のラジオにおける人気の分析をしたら、三十代主婦の支持が圧倒的とのこと。

さればこの本を三十代の主婦に捧げる。と書いてまた、考える。
それにしても例によって下半身の話が多すぎるのだ。

結局、僕と親父がお互いに捧げっこするのが誰にも迷惑がからなくて良いのではないかということになった。

そうなると気が楽になって、親父の手紙は二人あての名前になっているのだからと、

女房昌子にまで原稿を書かせてしまった。

前二冊は、「親父に較べて息子の文才はガツクリ落ちる」という評判があるし、この上「女房の方が亭主より書ける」といわれては困るので、これでオシマイという三冊目である。

永六輔

目次

はじめに（永六輔）

男と女

アダムの言い分イブの言い分

私のアダムとイブ

料理の味Ⅱ女の味

昌子どのⅡ私の提案

女の味ばなし

大阪の恋人たち

千絵と麻理へ

16 7

85 37

97

女の教育

父親の時代

人は断絶というが

栄光の女芸人

マスコミ時代の芸人たち

芸能セックス一元論

シモジモの話

娘達の性教育

ケツ論糞談議

家族としての女

慶応元年とキャッチボール

曾祖母から孫まで

あとがき（永忠順）

176 167

155 151

145 123

116 107

男
と
女

◇アダムの言い分 イブの言い分

▼子 → 読者

〈男にとって女とは〉

六輔 男にとっての女は、凸にとっての凹であります。これはデコにとってのボコと読んではいけません。

やっぱり凸にとっての凹と書かなければ面白くないし、出来る事なら凹にとっての凹か、凹にとっての凸でありたいと思います。

僕は凸凹という字を発明した人を尊敬すると同

私の主人、永六輔は、何かにつけて私をまきぞえにしようとします。
彼の友達もまた、同じくでありまして、この討論形式のインタビューは、高橋睦郎さんにおだてられて、「大人の絵本」に別々に書かされたものです。
オッチョコチョイは夫だけではないので、せめて娘達はずつましく育ってほしいと願っています。

昌子

時に、この字をみる度に男と女とを連想する自分をも尊敬するのであります。

昌子Ⅱ恥ずかしくて答えられません。でも、恥ずかしさを耐えるとすれば、回という字を發明します。さア、尊敬しろ！

へ女にとって男とはへ

六輔Ⅱ凹にとつての凸でありまして、以下前章を参照のこと。

昌子Ⅱ××××××××です。(自主規制)

または、時には赤ちゃんのオチンチンのように可愛らしく、時にはお爺ちゃんのおちんちんのように触る気もないもの。

へ夫にとって妻とはへ

六輔Ⅱ妻は夫を慕いつつ、夫は妻をいたわりつゝ。というわけで妻たるもの、夫に捨てられないように尽して尽して尽しぬくべきであります。裏切られようが、叩かれようが、尽して尽して尽し

ぬいてこそ妻であります。

とに角、妻である限り、強姦が成立しないというつまらない女なのですから。しかし、そのつまらない女のなんと有難いこと。おオ、僕の太陽！

昌子Ⅱ太陽。

へ妻にとって夫とはへ

六輔Ⅱ生命。

昌子Ⅱヒモ。または、生命保険をかけておくもの。

へ一般的な意味で浮気についてへ

六輔Ⅱ僕は家に帰る途中の「立小便」だと思えます。つまり、家に帰ってすればいいのに、ついに我慢しきれなくなってしまつて、という感じがするのです。

だから妻が夫の浮気をたしなめるのは立小便を注意するお巡りさん程度がいいのではないでしようか？

昌子Ⅱおまわりさんと同じようなものですが、機

動隊程度のことはさせていただきます。それに別件逮捕という手もありますし。

へ奥さんの浮気が考えられますかへ

六輔 理想的な夫を持った妻だけに、愛人の出来た時はさぞ大変な苦しみ方をするに違いありません。それを思うだけで昌子が気の毒で……。

へご主人の浮気が考えられますかへ

昌子 理想的な妻を持った夫だけに、愛人のできた時は、さぞ大変な苦しみ方をするに違いありません。それを思うだけで、主人が気の毒で……。

へセックスについてへ

六輔 智恵の輪遊びのセットみたいなものです。いろいろな形を楽しみます。智恵の輪と違う点は必ず抜けることです。

昌子 安心感といったらいでしょうか。それとも……やっぱり安心感が一番いいみたいです。

へ女のお洒落とはへ

六輔 美しくなる為には（本人の誤解も含めて）あんなにも勇気が出るものかと驚きます。「あなたは美しい！」といえ、簡単に裸になっちゃうことは仲間のカメラマンから聞いています。

「お洒落をしないあなたって本当に美しい！」といわれたらどうするんでしょう。

女のお洒落ほどバカまるだしのものはありません。強いていえば女のお洒落とは愛されることであります。

昌子 無人島にも鏡があるかしら。

へ男のお洒落とはへ

六輔 愛されることが女のお洒落なんだということとを心得ている女に愛されること。

昌子 清潔な禪。または玉のような汗。

へ夫のお洒落とはへ

六輔 僕の場合、顔も洗わず歯もみがかず、猿股もとても昔は白かったとは思えないものを身につ

けています。

自分を汚しておくことで内側から光り輝く魅力
を際立たせようという作戦なのです。

昌子Ⅱ分かってやってください。他にたのしみがないのです。それに内側から汚れて来なきゃ、外側だって、あゝ汚れないと思うのです。

〈妻のお洒落とは〉

六輔Ⅱ日本女性はすべからく昌子を見習ってほしいものです。お洒落なんかどうでもいいのです。

なんと、彼女は夫を待たせません！

昌子Ⅱ夫のおかげで、何もしなくても私がひきか
つてみえます。(私が待たせないのではありません。私
の主人は一分だって妻を待つてはくれない
のです。)

〈旅について〉

六輔Ⅱ学童疎開が僕の旅の始まりでした。心細い
長い旅でした。だから、今でも仲間との楽しい旅

よりも、不安に満ちた旅を好んでしまいます。

妻子を連れて逃げるような旅にさえ憧れてしま
うのです。不幸な世代です。

昌子Ⅱそうです。そうです。私も終戦後、北京か
ら引き揚げてくる時のあの旅ほど、心に残る旅は
したことがないのです。生命を賭けた旅でした。

私は今でもあの旅を思い出すと、うなされて夜中
に目がさめます。

〈入浴について〉

六輔Ⅱ僕は一冊の本を読んでしまうほど長いお風
呂に入ります。

鳥のガラなら充分にスーブがとれるのですが、
そうしておいて一ヵ月に一度は、ためにためた垢
を落とします。

それは、清潔になりたいということより浴槽一
面に見事な垢を浮べたいからに他なりません。

そして、あの垢がゴボゴボと音をたてながら吸

水口に流れ去る時、僕は思わず手を振って「サヨナラ、サヨナラ、サヨナラ」とつぶやいてしまうのです。

昌子Ⅱ娘達と三人で毎晩身も心も清めてから就寝するという良い習慣をあざわらうくせに、ノゾきにくるのは何故でしょうか？ 家では許しましょう。よそでは、くれぐれも気を付けて下さい。見付からないように。

〈食事について〉

六輔Ⅱ夫婦で食べると、とてもセクシアルな連想をしてしまいます。二大本能なのですからバランスがとれているともいえますが、うまいものを食べて、寝て暮せたらどんなに幸福だろうと思いません。その結果、今は四人で食べています。

娘二人がまだ昌子の料理がなっていないことに気がついていません。

昌子Ⅱマサコのカロリー・ブックにしたがって、

我が家の食事だけ、とっている私と娘二人にひきかえ、主人のお腹には、何も食べてこないいいながら、外の食事にウツツをぬかしている証拠がれき然。ブックと肉がついています。

その上、あなたは外で妻の料理のひどさを自慢しています。「面白いから家へ食べに来ないか」とは何事ですか！

〈ベットのについて〉

六輔Ⅱ昌子が猫に優しく語りかけているのをみてみると、とても奇妙な気がします。

赤ちゃんに対してするように猫を相手にしているのは不愉快です。だから、僕は時々猫をぶつとばすのであります。そして、この男にひそむ残酷性を娘達にみせておくのも人生勉強なのです。

昌子Ⅱ何もわかつちやいない猫を目の前に坐らせて、お説教しようという無駄な努力をしている主人を見ていると、とてもあわれになります。猫は

お説教をきかされた揚句、態度が悪いとぶつとばされるので、主人が遠くにチラッとでも見えると、夢中になって逃げまどい、この間も、大事なローソク立てを割ってしまうし、ラジオは、棚からおっことして聞こえなくしてしまうし、泣きたい気持です。

私にとっては腹をいためた我が子同様、娘達にとつては、大事な弟と妹なのです。あんまり猫をいじめると猫の子生んじやうぞ！

＜教育について＞

六輔Ⅱ子供達の成績がいいことに不満はありませんが、女の子なのでから学問よりも、感受性と智恵の豊かな子であればいいというのが僕の主義です。

性教育についても昌子が何にも知らなかったように、それでなんの不便もなかったような環境にしておけばいいのではないのでしょうか。

そして大切なのは躾です。家庭は躾だけで精一杯であるべきです。美しい言葉と、楽しい言葉（下品なものも含めて）を豊かにつかえる日本人に育てる努力だけをしましょう。

昌子Ⅱ毎朝、起きぬけに父親が高らかに放屁するのも、躾の一環なのだと解釈しています。あなたはあなたの御両親の躾を、自分を飛ばして娘達に押しつけすぎます。

＜家事について＞

六輔Ⅱ昌子が料理、洗濯、掃除、買物を一人でやっていることは尊敬しています。

娘達は普通の生活、僕は目茶苦茶な、つまり夜明けに帰るような毎日だし、お手伝いさんという名の女中がいればもっと楽になると思うのに、あなたはそれを拒否するし、だから一緒に出かけるチャンスも少なくなるという具合であります。

女中をやとわないのはケチだからでしょうか。